

●歴史小説家・時代小説家

いまむらしょうご  
**今村 翔吾**さん

歴史小説家の今村 翔吾さんの、近江を舞台にした小説『塞王の楯』(集英社)が直木賞を受賞しました。

今村さんは、本市埋蔵文化財センターで発掘調査に携わっていた経歴を持ち、人気作家になられてからも講演に訪れるなどしています。今村さんに、市民の皆さまへのメッセージをいただきました。

今村 翔吾・著『塞王の楯』→



直木賞受賞おめでとうござります

撮影/山口真由子

●市民の皆さまへのメッセージ

**直**木賞受賞の連絡がきた時は、「ようやくここまで来た、よっしゃ〜!」という性格なので、泣くつもりなどなかったのに、これまで関わってきたすべての人の顔が浮かんできて号泣してしまいました。

直木賞受賞という夢を、熱く追い求めてきました。これからは温かく「夢は叶えるもの」と若者や子どもたちに伝えていけたらと思います。

作家になる、直木賞を取る、と約束を交わしたダンス教師の教え子の中には守山の子もたちもいます。作家になるためにダンス教師を辞めて、守山市文化財保護課で発掘調査の仕事をしていました。作家になると決めたものの、ダンスしか知らなかった私にとって守山で過ごした日々は、次のステップに行くための救いと自信をくれました。

次は滋賀県(近江)を含め、ひとふで書きで全国を回りたいな、という夢を描いています。私の作品には近江を舞台にした作品、守山時代の思いをこめた作品もあります。ぜひ、手に取って読んでください。-----

作品と人柄のファンになって  
埋蔵文化財センター 所長 岩崎 茂さん

私は、今村 翔吾さんの作品と人柄、両方のファンです。彼が文化財保護課に在職していたころは上司の立場でしたが、とても温和で楽しい性格でした。古代の発掘が多い現場ですが、埋蔵文化財センター友の会で大垣・岐阜城を担当してもらった時に、彼の歴史の造詣の深さを垣間見ることができました。作家としての実力もすごいんだけど、きっと水面下で膨大な努力をしていたのだと思います。

今村さんの作品を読んでからは「純粋な人間愛に満ちあふれた人だな」と思い、ファンとして応援してきました。受賞された「塞王の楯」の中に「今からでもよいではないか。人はそう思った時から歩み始める」という言葉があります。読み手の勝手な感覚ですが、30歳にして作家を志した今村さん自身へのエールでもあるのではないかと感じて、印象に残っています。



地域作家コーナーのスター誕生  
市立図書館 司書 天谷 真彦さん

実力も勢いもある今村 翔吾さんは、地域作家コーナーでも特に人気がありました。市立図書館には今村さんの著書の所蔵が27タイトルありますが、直木賞受賞の後は品薄状態です。受賞作「塞王の楯」は100人以上が予約をしていて、追加注文をしています。納品待ちだそうです。

講演会にご登壇いただいたり、年賀状をちょうだいしたり、本市と今村さんは縁も深くファンも多いので、これからも地域作家コーナーのスターでい続けてほしいと思います。



市立図書館の今村 翔吾さんのコーナー



※写真撮影時のみ、マスクを外していただきました。